

令和5年度 第2回小牧市地域協議会推進市民会議 会議録

1 開催日時 令和5年8月21日(月)
午前10時～正午

開催場所 小牧市役所 東庁舎5階 大会議室

2 出席者

(1) 推進市民会議委員 14名(欠席:加藤委員、小柳委員、吉田委員、行村委員、関委員、藤本委員)

(2) 事務局 支え合い協働推進課 倉知課長、堀田主幹、臼井係長、岡田係長、落合主事

(3) 傍聴者 0名

3 会議資料

会議次第

資料 1 地域協議会との意見交換実施結果について

資料 2 今後の会議の進め方

4 会議内容

1 市民憲章の唱和

2 あいさつ

3 地域協議会との意見交換報告

4 意見交換

5 その他

【事務局】

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。ただいまより令和5年度第2回小牧市地域協議会推進市民会議を開催させていただきます。開催するにあたりまして、市民憲章の唱和をさせていただきたいと思っております。恐れ入りますが、ご起立をお願い致します。お手元の次第の裏面をご覧くださいまして、私が先導させていただきますので、ご唱和をよろしくお願い致します。

〔小牧市民憲章 唱和〕

【事務局】

ありがとうございます。どうぞご着席ください。

それでは、本来でしたらここで、進行を加藤会長にお譲りするところではありますが、本日加藤会長が急遽体調不良ということで、ご欠席の連絡をいただきました。また、委員の皆さま方におかれましても小柳副会長、吉田委員、関委員、藤本委員、行村委員は欠席されておりますので、ご承知おきください。

会長、副会長不在のため、本日、力不足ではありますが事務局で進行させていただきますのでよろしくお願い致します。正直事務局では不安が多くありますので、本日こちらにおかけいただいております伊藤先生にお手伝いをお願い致しましたので、少しご挨拶をいただきたいと思っております。

【伊藤先生】

皆さんおはようございます。私昨日まで、4日間くらい家に籠って採点をしておりました。我々の業界で採点の祭典と言っております。昨日「どうする家康」がちょうど小牧の場面だったのでそれを見ながら明日ここに行くんだという感じで結構気合を入れていたんですけれども、残念ながら加藤会長、小柳副会長不在ではありますが、家康は家臣団を頼りにされてきたということでした。会長不在ではありますが、我々委員が支えられたらなと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

【事務局】

どうぞよろしくお願い致します。では拙いながらに進めさせていただきたいと思います。次第の2「地域協議会との意見交換報告」についてです。これまで協議会の皆さま方の発表と委員の皆さま方の意見交換を行っていただきました。その内容につきまして、事務局の方から説明をさせていただきます。

【事務局】

それでは次第の2「地域協議会との意見交換報告」についてご説明をさせていただきます。資料の1をご覧ください。地域協議会の活性化に向けて、令和4年8月から令和5年6月までの4回にわたり、地域協議会との意見交換が行われました。推進市民会議の委員である協議会を除いた、9つの協議会から活動の現況やその自慢や悩みなどを聞き、委員の皆さんにはアドバイスなど意見交換を行っていただきました。委員の皆さまにおかれましては、多様な観点から、多くの貴重な意見をいただきました。まずもって、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

下段をご覧ください。意見交換で委員の皆さんから出された意見について、事務局で整理させていただきましたところ、大きく2つのテーマが見えてきました。1つ目は地域協議会の好事例、素晴らしい活動に関する事で、多くの意見がありました。2つ目は地域協議会の課題に関する事で、担い手不足、周知方法・参加者増加に関する事などが挙げられました。

2ページをご覧ください。地域協議会が抱える課題について多く意見が出され、それらをまとめたものが、この表になります。人材についての意見が多く出され、1から3までが人材に関する事項になっています。ここで、先に3ページをご覧ください。地域協議会の人材確保について、地域協議会との関わり方・求める人材を3つの段階に分けて、図に表したものです。第1段階としまして、一般の参加者（オーディエンス）とし、協議会の行事に参加してもらう人として、これらの人を増やすために、認知度アップ、周知方法が課題となっています。次に、第2段階としまして、協議会の委員やボランティアを運営者（プレイヤー）として確保するには、誰に声をかけるのか、どのように声をかけるのか、負担感とやりがいをどう伝えていくのかが課題となっております。最後に、第3段階

として、代表者（リーダー）では、高齢化、固定化が課題となっています。2 ページへお戻りください。表を左から見ていきますと、1 のリーダーの高齢化、固定化という課題に対して、子どもや若い世代を育成といったアイデアが出されております。地域協議会に関わってもらう人を新たに増やしていく必要があるということで、「仲間を増やすためには」という論点を挙げさせていただきました。2 のプレイヤーのマンパワー、ボランティアの確保が難しいという課題に対して、スポットボランティア（これは、正しくはプレイヤーの課題となります）、事業間のボーダークロス、やりがい発信などのアイデアが出されました。地域協議会の活動を参加しやすい形にすることが必要であるということで、「もっと気軽に活動を」という論点としました。3 のオーディエンスの参加者を増やしたいが良い方法が無いといった課題に対して、SNS 活用といったアイデアが出されました。まずは、地域や地域協議会に関心を持ってもらうことが必要ということで、「地域のことをもっと知ってほしい」という論点を挙げました。4 の地域で一番生活している、子どもと高齢者の見守りという課題については、学校とタグを組むというアイデアが出されました。地域で過ごす時間が長い、子どもと高齢者をターゲットとした事業は、地域協議会とマッチするだろうということで、「地域協議会で伸ばしていきたいこと」という論点を挙げました。

次に4 ページ、4 「素晴らしい活動」をご覧ください。ここに挙がっているのは発表を行っていただいた協議会の事業となっているため、委員である協議会の皆さんが取り組まれている事業については、ここに掲載されていないため、よろしければ後の意見交換等でお話しただけですと、議論がより深まると思いますので、よろしく願いいたします。素晴らしい活動、キラリと光る活動についてですが、それらの活動に共通する特徴として、2 つ挙げさせていただきます。1 つ目の特徴は、(1) 着眼点です。① 地域課題に沿った活動として、地域で不審者が出て、小学生の下校が不安だという課題に対して青色回転灯防犯パトロール活動を行ったり、ひとり暮らし高齢者が重いものが運べない、庭の草取りが大変だなどと困っていることを課題として、おたすけ隊活動を行ったりなど、地域に必要とされている課題に沿った活動となっているという点です。そして、もう一つは② 地域の財産の活用です。本来は不要となった、民具を展示して地域の歴

史を知る機会としたり、休耕地に花を植えて地域の憩いの場にしたりという事例があります。2つ目の特徴は、(2)積極的な連携・効率化を行っている点です。①として、他団体・企業との積極的な連携です。中学生ボランティアが防災訓練に参加したり、社協・企業と連携して移動販売を行ったりなどの事例があります。②としまして、事業の効率的な実施(ボーダークロス)を行っている活動です。通学児童の見守りと認知症高齢者の見守りを、一緒に行うという事例です。

資料の2、今後の会議の進め方という資料をご覧ください。1、2は先ほどの説明と重複しますので、割愛させていただきます。3の論点の深掘りをご覧ください。今日の第2回の会議では、大きく地域協議会の課題について議論いただきたいと思います。(1)地域協議会の素晴らしい活動のうち特徴2積極的な連携・効率化と、(2)地域協議会の抱える課題について議論いただきたいと思います。次回の会議では、地域協議会の事業をよりよくしていくことについて、考えていただくということで、地域協議会の素晴らしい活動の特徴1着眼点と、特徴2積極的な連携・効率化のうち、②事業の効率的な実施、及び抱える課題のうち、④地域協議会で伸ばしていきたいことについて委員の皆さんで議論いただきたいと思います。裏面をご覧ください。(3)手引きへの反映ですが、委員の皆さんに議論いただいた中で、広く各協議会に適用できると思われるものについては、みんな育てる地域の手引きに反映をしていけたらなと思います。

参考として、スケジュールをまとめたものを表にさせていただきました。以上で駆け足になりましたが説明を終わります。

【事務局】

事務局の説明でした。前回までは、地域協議会に活動発表を行っていただき、その発表を聞いて、委員の皆さまにもこんな意見をいただいたということでございます。これからさらに深掘りということで皆さまに各テーマについてお話をいただきますが、この時点で何かご質問等あれば確認しておきます。よろしいでしょうか。それでは大変私緊張しておりますけれど、加藤会長のようにはいきませんが意見交換に進みたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。頑張って進行していきたいと思います。それでは意見交換の前に事務局からの説明ということで、お話を聞いてい

いただきました。お話を聞くだけです。頭の中が固くなるかなと思いますので、まずは恒例のグループ内での自己紹介を行っていただきたいと思います。自己紹介だけではもう知っているよで終わってしまうので、最近あった少し嬉しかったことも添えて自己紹介していただこうかなと思います。嬉しかったこと、ちょっと日常を振り返らないと出ないと思いますので、少しそれで頭をほぐしていただきましょう。それでは1人1分程度、グループで4分程度自己紹介をよろしくお願いします。それではスタート致します。

[自己紹介 4分]

【事務局】

少しでも話が盛り上がればなとやらさせていただきましたけども、それでは早速ワークに入っていきたいと思いますが、少しほぐしたところで深刻な話が出てしまいます。先ほど事務局から説明させていただいた資料で、委員の皆さまに考えていただきたいことを数点挙げさせていただきました。説明の中で、オーディエンスやプレイヤー、少し横文字を使っておりますが、このポイントについて少し考えていただきたいなと思っております。

1つは①地域(地域協議会)に関心を持ってもらうためにはということで、資料3ページのオーディエンス、観客であったり、催しなどに来てくれる人、こういった人達に多く来てもらうためにはやはり地域、または地域協議会そのものに関心を持っていただかないといけない。来てくれる人、応援してくれる人を増やすにはどうしたらいいのか、こんなことにヒントになることについて考えていただきたいと思います。

②は協議会の活動にもっと気軽に参加していただくにはという、この点について考えていただきたいと思います。これはプレイヤーで、ボランティアの方だったり、実際に行事の際に取り回しをしていただく方です。観客として参加するだけでなく、少しでも運営側として手伝ってくれる人を集めるにはどうすればいいのか。これは先だつての地域協議会の代表者会議の中でも少しでも手伝ってもらえる人から始めるのはどうかなと意見が出てきました。そういった所でガッツリ入っていく手前のほうで参加していただく人達をどうやって入れたらいいのかという所を話し合っていた

だきたいなと思います。

最後③の地域協議会の仲間を増やしていくということですが、仲間とは少しコアなメンバーを想定しています。リーダーと言っても1人ではないと思いますが、地域協議会の仲間を増やしていくにはどうしたらいいのかという所を話し合っていたらだきたいと思います。話し合っていたら最後に発表をしていただきますが、1つずつについての答えを出す必要はありません。これについてはこうかなという所は最後発表していただきたいなと思います。今日委員の皆さま本当に色々な方面の方からお集まりいただいておりますので、協議会についてということを考えていただくのと、自分が所属している組織だったらこうだなと、そういった所からもアイデアを出していただきたいと思います。協議会だからこうだという前に、自分たちの活動だとかうだというところにヒントが隠れていると思いますので、そういったことを積極的に活かしていただけたらなと思います。それではワークの進め方ですが、お手元に黄色い付箋を配らせていただきました。そして黒色のサインペン。こちらはサラサラと書きやすいサインペンとなっておりますので、付箋に意見を書いていただきますが文章にする必要はありません。何かキーワードなどで結構なので、自分の思いついたものをどんどん書いていく、まず1人で書いていくことを少し時間を取って行っていきなと思います。個人ワークということで5分間、このポイントで自分だったらこうだったな、こうしたらいいんじゃないというヒントになることをまずは書き出してください。周りの人を見るのもいいです。相談は後でしていただければと思いますのでまずは個人でのワークを行ってください。それでは、スタートです。

[個人ワーク 5分]

【事務局】

お疲れ様でした。だいぶ気疲れしましたね、私も気疲れしてしまいましたけれどもお疲れ様でした。少しの間、頭をフル回転していただいたのかなと思いますが、1回リラックスというか休憩というか、息を整えていただきまして、今出していただいた意見を今度は模造紙に付箋を貼りながら意見の発表をし合っていたらだきたいと思います。1点ですね、先ほどキーワ

ードだけでいいですよと言ったのでたぶんキーワードだけだと「どういうこと？」となってしまいますので、そちらの意見についてこういうことだよ、と発表していただきたいと思います。同じような意見があった場合には僕もだよ、私もだよと賛同していただいて、異なる意見が出た場合についてはそういう考えもあるんだな、と感心してください。この段階で何か意見それは違うかなというお話だったり、相手に納得してもらう必要は全くありませんので、まずは出した意見に頷いて、こういう風なんだよと発表し合っていただきたいです。似たような意見があった場合にその付箋を似たようなところに貼るという作業をしていただくと意見をまとめやすいのかなと思います。それでは意見交換を15分かけて行っていただきたいと思います。その15分が終わった後、模造紙を見ながら結構ですので発表をそれぞれこんな意見出ました、ポイントについてはこうなのかなと意見出ましたよと発表していただきたいと思います。それでは今から15分間話し合いをしていただきたいと思います。お願いします。

[意見交換 15分]

【事務局】

はい、15分経ちました。すみません、盛り上がっているところで。これから少し緊張するかもしれませんが各グループで発表を行っていただきたいと思います。お話しいただいた部分をきれいにまとめなくても結構ですのでこんな意見出ました、こういう風じゃないのか、ということをグループごとに発表をしていただきたいと思います。それでは早速ですがAグループから発表をしていただきたいと思います。ではAグループさん発表をお願いします。

[Aグループ 兼子委員より説明]

ホワイトボードにあります関心を持ってもらう、気軽に参加してもらう、仲間を増やすというのが気になり、皆さんに前向きに書いてきてほしいということだと思いますが、そもそも地域協議会にどういう存在意義があるのか、なんでこんなものがあるのか、この地域協議会の良さを改めて分かってもらうようなことが、まず第1にあってもいいんじゃないのかなと思

いました。それから具体的な運営のところではやっぱり参加してよかったと思う何かがあるよねということ。そのために魅力ある取り組みの内容、それから地域の特徴・特性を活かした取り組み、多くの人が集まるならではの特技・得意なことを活かした活動。そういったことが挙げられました。それから活動していく中で、ただ漠然と行うだけではいけないので、目標設定を意識しながらこの分野についてはここまでやろうねとか、こういったことを確認しながら進めるということもありかなということ。また最後に他団体の協力について、色々な団体があると参加する人も大変だろうし、協力しながら進められるならその方がいいので、例えば学校 PTA と連携とか中学生ボランティア活動の利用だとかそういうのも考えられると思います。そういうことを通して学校のホームページで P R していくとか好循環を切り出していくという意見も出ました。

【事務局】

ありがとうございました。拍手をお願いします。出た意見としてはやはり協議会の良さや行っている意味を知ってもらうことが大事で、知ってもらうためには対象者の広報媒体を使って P R していくということですね。参加に繋げるためにはやっぱりやってよかったなと思ってもらうことだったり、その地域で特色のある取り組みを取り込むとその地域の人が参加してくれる。また目標設定の確認で何を自分たちがやりたい、何が出来たのということを確認しながら進めることも必要じゃないかなという意見でした。あと色々な団体との連携ということで次の議題にも少し関わりますね、大変良い意見をいただきました。もう 1 度拍手をお願いします。では続きまして B グループをお願いします。

[B グループ 森川委員より説明]

B グループの森川と言います。私は味岡の地域協議会の設立から関与しています。まず地域協議会という名前ですが、どのような活動している団体なのかが名称から分かると良いと思います。例えば、まちづくり推進協議会という名前であれば、地域の将来を考える会だと理解してもらいやすいと思います。それから活動していく中で皆さんからの意見が出ますが、この地域協議会の活動、活動すればするほど幅が広がって小さい小学生、

子どもたちを対象にした活動から高齢者福祉の活動、それから防災・防犯といった360度の活動になっています。数人のボランティアの人が360度の活動を引っ張れるか、そういう問題も出てきます。それで私も行っていますが、活動すればするほど難しくなっています。やはり自分に関わることができる活動にも限度があるということです。それから現実として委員がたくさん集まってくると、委員の中でも違う考えの人もいるというそういう問題も出てきます。Bグループの皆さんは協議会の良い点といった皆さん意見を出してくれました。以上です。

【事務局】

森川委員からも協議会の現代表ということで色々話していただきました。まず協議会の名前がわかりにくいということで、例えばまちづくり推進協議会とかの名前とかもせめてまちづくりの所だけでも書いてあると違うのかなと。まちづくりと言うと、とにかく幅が広いよねということで、特に今運営の中核になっている人たちは少数の人たちでこんな守備範囲でやっていけるのかという悩みがあるのかなとお聞かせいただけたかなと思います。ここに書いてしまいましたが、この仲間を増やしていきながら、委員をまとめていかないと上手く立ち行かない、悩ましいところです。

各会の代表さんのご苦勞はちょっと言葉にし難いものがあるかもしれません。そういったところもクリアできたらいいなというご意見でした。ありがとうございます。拍手をお願いします。続きまして今度はCグループをお願いします。

[Cグループ 安藤委員より説明]

まず1番目の地域協議会に関心を持ってもらうということで、まず出たのはやはり名称をもっと親しみやすい、身近な名称にしたらどうかということでした。もう1つ関心というキーワードから困っている方に寄り添う課題を募集したりしながら、またみんなからも募集して色々な困りごとに寄り添えるような協議会だったら、これは価値のある組織だなと関心を持ってもらえるんじゃないかなと思います。それから2つ目のもっと気軽にというのは、例えば参加しやすい仕組みにしたらどうかということで、例えばゴミ袋を配っておいて、好きな時間に、好きな場所で、好きなように活

動して、それを写真で送って記録だけしておいてくださいねと言うと、僕はこんな掃除しましたと SNS へ投稿してお互いに活動の PR ができるといふことと周知もできると思います。それから 3 つ目ですが、仲間を増やしていく、ここは私が少し考えたことですが、会があると会をやりっぱなしで終わってしまうことが多いです。学校もよく事業をやりっぱなしで終わりにしてしまいます。私の経験からいくと、参加した個人が感じた経験が共有されることは少なく、参加者同士が再び会うこともなかつたりすることがほとんどだと思いますが、その場で起こっていた居心地の良さ、この会でこんな新しい発見がありましたとか、こんな気持ち、新鮮な気持ちを共有出来たりするとすごく充実感を感じて帰れる。また同じような会がどこかで開催されたら、あの会楽しかったよね、また出てみたいねということで、また参加していただける。そうするとリーダーもこんなに皆に喜んでもらえるなら私はリーダーとして参加したい、リーダーとして参加してもいいよというのがまた次もやるよというような形に繋がっていくのかなということで、なんとか参加したい居心地の良さを共有して帰っていただく。そしてそれが次の会に繋がっていく、そんな参加の仕方もあるんじゃないかなということを話し合いました。以上です。

【事務局】

ありがとうございます。協議会が身近なものと感じられるような名称、愛称みたいなご意見もいただきました。こういった協議会について役所の仕組みの中で作っていくだけでは少し地域の中で浸透しにくいのかなというご意見かなと思います。あと課題の募集ということで、協議会がなんか勝手にやってるではいけないため、その地域に住んでいる方たちが、これをなんとかしてほしいなという困りごとというのを地域の人たちから集めるというようなお話をいただきました。これも事務局の方で少し話していた各協議会で取り組んでいてこれはいい取り組みだなというものはこういった地域の課題にしっかり取り組まれていると思います。そして地域協議会の仲間を増やす、要は参加したい人たちがどういう風に協議会に繋がっていくか。充実感、やってよかったというところについて、それをしっかり得て、また次に参加する機会を設けていけば、そこから参加し続ける人、さらにそこからリーダーになる人が出てくるのかなと。やっぱり協議会に

参加すると気持ちよかったね、やってよかったね、心地よかったねというのを心がけるのも大事なのかなと思いました。あと順番が前後してしまいましたが、参加しやすい仕組みということで、ゴミ袋。そう言ったまず準備しなければやれないことではなくて、気軽に参加できる条件というのを協議会側の方から作っていき、さらにそれを難しい手続きをするのではなくて、今だったら SNS などを使って報告するような、そういった取り組みもいいんじゃないかということで今風なご意見をいただきました。大変参考になります。ありがとうございました。では拍手をお願いします。お待たせしました。Dグループの皆様よろしく申し上げます。

[Dグループ 山本委員より説明]

はい、山本です。よろしく申し上げます。こちらの班は特に1、2、3と分けて話し合いをしていたわけではありませんが、1番時間的にたくさん話した内容としては、学校とのタッグを強力にしていこうです。例えば先ほど言っていたのはおたすけ隊。これは地域のおたすけ隊があるんですけども、学校おたすけ隊として、学校の色々な困ったことを逆に地域の人たち、また各団体、垣根を超えた人たちが支え合いながら助け合ったらいいんじゃないかと思います。そうすると人材としては多く、色々な経験値や知恵を持ってらっしゃる方がより多く集まるんじゃないかと。家族経由でどんどん情報が広がっていく。それから連携と言いますか、知り合いが増えるという形でどんどん増えていくんじゃないかということです。あと地域に関心を持ってもらうというところなんですけれども、これはこの地域だけの、その人たちに知らせるというわけではなくて、市の行事、市民まつりとか大きな行事のときに私たちの地域はこんなことやってますと、SNSとかそういうものではなくて、市民の声と人と人で発信できるような対面でコミュニケーションを取ってくといいと思います。あとは自分ではこんなことができるアピールをどんどん出していくと、先の人材が豊富になるということにも繋がっていきませんが、地域の中でこんなことができるアピールをしていただくと、そういった方たちに役に立っていただくような機会を設けることができ、プレイヤーが増えるんじゃないかと思います。以上です。

【事務局】

ありがとうございました。例えば学校おたすけ隊とか、学校さんとの協力体制というのは前の推進市民会議の中でも言われていたことだと思います。地域の中で色々な団体と繋がることで家族からも広がると貴重なご意見をいただきました。協議会と別の大きな団体、他機関ということで名前が挙がってくるのは学校なのかなと思います。学校さんと色々やっているところもいらっしゃるのでまた後でお聞きしようと思います。こういった意見は素晴らしいです。また関心を持ってもらうには市の行事とか地域の中だけではなく、よその地域の人に知ってもらうために、市全体の行事の中でやっていく。だけどそれはただただ流しただけではなく、きちんと対面で説明できるような感じがいいかなと思いました。またこんなことができるよという所については、課題を募集するというところもありましたが、こんなことができるよというのとやってほしいよというのを上手く出しあう状況ができるといいのかなと感じました。でも PR していくことが大事かなと思います。本当に次の議題へ行く布石みたいなことも言っていただいて大変助かっておりますけれども、ありがとうございました。拍手をお願いします。

どうでしょう。今4グループから発表いただいたんですけども、ちょっとまだ言い足りてなかったとか付け足しとか、これってどういうことだったかなのご質問とかあれば一旦ここで少しお伺いしますけどもよろしいですか。森川委員いいですか、味岡小学校区地域協議会で取り組まれている学校おたすけ隊について、お話しいただけないでしょうか。

[森川委員より説明]

味岡の地域協議会ですけども小学校のおたすけ隊を今年も計画しております。秋に小学校の運動会がありまして、運動会の2週間くらい前に地域協議会が音頭を取ってスポーツクラブ、それから通学路パトロール隊、おやじの会、小学校5年生6年生の児童とその保護者で今年も9月30日に除草作業を予定しております。去年の場合は120人くらい参加してくれましたけれども、それを地域協議会の活動としてやることについて疑問を持っております。それはどうしてかと言うと、昔小学校のグラウンドの草取りというのは、地域や親がやっていたと思うのですが今はもう全然父兄の

方ではやれないと。それで草がぼさぼさになったということですから毎月、月初めに味岡のおたすけ隊の有志が門の近くの草取り、それプラス先ほど申し上げた活動を、まずはPTAが取り組むべきだと思うが、難しいということのうちの方が取らざるを得ないということをやっています。そんな状況です。小学校おたすけ隊の活動については、以上です。

【事務局】

ありがとうございます。またこれも1つの課題かもしれませんよね。今までは親御さんたち、PTAでやってきたことができなくなってきた。こんなような課題もあったのかなと思います。どうでしょう伊藤先生、ここで少しコメントをいただけないでしょうか。

[伊藤委員]

はい、意見を伺っていて、来る前から考えていたんですけども、皆さん最初にお考えいただいた通り地域協議会って「何なの、何それ」というところがやっぱりクリアじゃないのでそれを周知するのはすごく難しいのかもしれないと思います。なぜ周知が難しいかという、協議会において地域で持っている課題が違うからですね。だから地域協議会の中でこんなことをしますというのを逆に言えないからPRするのが難しいところがあると思います。それを今Bグループが言ってくれましたが、私たちはこれが課題、こんなことをやりましたみたいなことを共有し合っとうちもそうかもしれないとか、もう1回立ち戻ってみて、常に循環してこういうことをやっているんだけど、どうだったかとかやったことに対する評価と同時に、やってほしいことというのが本当に拾えているのか、これが意外に難しいんですよ。例えば困っていること全部に答えられるわけではないんですけど、地域協議会では個人の困りごとは出てこない、出せないと思うんですよ。だけど個人の単位で悩んでいることは家族では抱えきれないものがあったりするんですよ。こども食堂がそうですが、家族単位で抱えきれないことに対して、ニーズに応えましょうという支えになっているのはこの地域協議会で、例えば個人単位で言ったら民生委員さんとかあると思うんですけど、1回聞いてみようというのが地域協議会でそこからスタートして何ができるのかな私たちにと言うのを意識してもう1回立ち返って次の議

題で考えてほしいと思います。自分たちで全部みられるわけではないんですけど、人材として例えばどこどこに住んでいる誰々さんこういうことやっているんだよね。みたいな、そういうところに1回立ち返って自分たちの地域にどういうリソースがあって、どこを窓口にして、どこにアプローチすれば一緒にその解決へ持っていけるかを考えることが大事なのかなと思いました。というところで次の議題をよろしくお願いします。

【事務局】

ありがとうございました。先生からのお話と森川委員にお話しいただいた学校のおたすけ隊とか学校のためにおやじの会や青色回転等パトロール、色々なところと関わってきたお話をいただきました。そこで2つ目のテーマですけれども、他団体や企業と積極的な連携を進めるということで、先ほどお話ししていただいたのはどっちかと言うと、協議会に関わってくれる人、個人の方が多かったかなと思います。ここで他団体となると色んな活動を既に行っている団体だったり、企業さんと繋がっていくことが、先ほどこちらの方でもあった1人のリーダーが360度全部やっていくことは難しいよね、何か得意なことをやっている団体があるんだったらその人たちと一緒にやっていったらいいんじゃないかなと言うことで、今日委員の皆さまの中で地域協議会の別の団体に所属されている場合は、自分たちの団体はどういう風にだったら関わられるのかな、という切り口で結構ですし、あるいは他の団体、この地域にはこういうのがあるよねと自分たちでなくてもいいです。こういったところではこういう課題に対してだったら関わっていけるのかな、そのきっかけはこういうところで持っていったらいいのかな、他の得意を持っている団体が地域協議会と上手く連携していくためにはどうしたらいいか考えていただきたいと思います。少し難しいかもしれませんがこのテーマ1つだけです。これについてまた個人でワークをしてください。今度はテーマが1つしかないので3分間でまた個人の黙々と考える黙々タイムでお願いします。それでは3分間でお願いします。

[個人ワーク 3分]

【事務局】

はい、お時間です。お疲れ様です。やはり中々出にくいですよ。難しいなと思います。ではここからはまた1人で考えるのはやめて、ちょっと意見を出し合いながらまた話を進めていただきたいと思います。時間は12分でいきたいと思います。よろしくお願いします。

[意見交換 12分]

【事務局】

はい、お時間です。少し難しいテーマだったかなと思いますけれども、皆さん活発にご意見いただきありがとうございます。それではまたグループごとに発表を行っていただきたいと思います。今度は後ろ、Dグループから発表をよろしくお願いします。

[Dグループ 舟橋委員より説明]

舟橋と申します。企業団体、積極的な連携を進めるというお話です。私は北里地域協議会をやっておりますが、先ほど申した企業ないしは他の団体との積極的な連携というのは、最初にメンバーを揃えて設立しましたので、これは例えば、スポーツ振興会とか、民生委員の方々とか、こども会の方々、区長の方々をお願いして設立しました。企業に関しては後からになりますけれども、介護施設の社会福祉奉仕に参加をしてもらいました。そういう専門の方も、最初はボランティアで来ていただいて、福祉関係はやっていただいています。防災と福祉と交流の3部会を設立してはいますけれども、はなから専門的なことをご存じの方は積極的に勧誘しております、そういう方々に多くやっていただいています。それから味岡の会長さんが言われたように全てのことを地域協議会メンバーだけではできませんので企画については専門知識のある方でやってくださいと、取りまとめは私たち幹部がやるという形で、責任はとりますからと話をしました。そういった形で設立しました。色んな組織から色んな年齢層から参加していただいているものですから、後継者の人材は今のところ豊富だなど。私の仕事としては跡継ぎを、頭を選ぶことが仕事だなどと思っています。

【事務局】

ありがとうございました。拍手をお願いします。聞き方によっては妬ましい話かもしれませんが、元々立ち上げる時点でスポーツ振興会、民生委員など色んな所が参加していただいているのは協議会としては素晴らしいと思います。また介護施設や法人の専門員の方を最初はボランティアで参加ということなんですけれども、こちらのほうもおそらく介護施設や法人側も、もっともっと地域の方へ入っていきたいという思いがあった中で協議会とタッグ組めたのはすごくいいことなのかなと思います。そういう地域に入りたがっている団体があったら繋がることによってスムーズに連携できるのかなと思いました。あと専門知識がある人を積極的に加入、そういった人材を揃えていくことで今後の計画についても安心かなと思いました。素晴らしい発表でした。素晴らしすぎて羨ましいなと思っちゃいました。ありがとうございました。もう1度拍手をお願いします。はい、では続きましてCグループさんをお願いします。

[Cグループ 安藤委員より説明]

はい、安藤です。たまたま小牧南小学校区の石田さん、米野小学校区の土屋さんということで、この2小学校を合わせると応時中学校。私その応時中学校の青少年健全育成市民会議に関わっています。それともう1つ応時中学校の学校運営協議会、どこかで紹介させていただきましたが応時中ボランティアの『オーエスブイ』と言いますが、去年立ち上げまして、34人の地域の皆様に参加していただいて応時中ボランティアが2年目を迎えています。そんな地域です。そこで石田さんが中心になって、企業からの食品ロスを無くすためにこども食堂を立ち上げていただきました。これを将来的には地域協議会と連携を取りながら南小学校内、又はふらっとみなみあたりの公共施設へその事務所を持って行って、そこでお昼を食べたらちょっと勉強でもしようかということで地域の子どもたちを対象に学習支援をしようか、いわゆる今小牧が行っている駒末塾の小学校区版をやりたいと考えており、それを企業と連携しながら立ち上げたいと思っています。応時中のボランティアが立ち上がって学校運営協議会でやっていることはあいさつ運動とゴミ拾い運動。このゴミ拾い運動というのはあいさつ運動の日に、ゴミ袋を中学生が持って登校する、途中途中ゴミを拾って回収して学校で大きな袋にそれを入れるというようなことを今年立ち上げて、1

0月に2回目を迎えます。少しずつ規模が大きくなってきているのかなと。そこで警察と連携しながら交通安全をやったり、あいさつ運動をしたり、それから花壇ボランティアというのを立ち上げていて、グラウンドに植えた花を地域に持って行ったらどうかと、通学路にプランターを置くことによってその花を地域の方が管理してくれたりお世話してくれたり、地域にそういう活動が根ざしていくと広がりが出て協力者も増えていくんじゃないかなと思っています。以上です。

【事務局】

ありがとうございました。Cグループは特に応時中についてということで、ほんとに地域には色々な活動があるんだなと分かる発表だと思います。例えば食品ロスからこども食堂に繋いでというのは企業さんが抱える食品をロスしたくないよというような課題や思いがこども食堂の子ども、貧しい子どもを含めてですけど地域の子どもの居場所づくりに繋いでいこう、さらにこれが地域協議会と連携することで学習支援まで幅を広げていこうかなと、どんどん連携へと進むようなイメージがあり素晴らしいなと思います。また通学中のゴミ拾いというのも、挨拶とゴミ拾いを含めてさらに警察さんとの連携も見せることや花壇、お花ですね。こういったものについても、地域の中でそういった活動をされているグループがあればこういったことについても協力者を得られる場になると思いました。本当に色々な活動が連携する方法を考えられていて、連携できる人たちがいるんだよとこの発表の中で見えたのかなと思います。ありがとうございました。拍手をお願いします。続きましてBグループさんをお願いします。

〔Bグループ 野地委員より説明〕

Bグループの方は企業の連携という所では地域と活動するにあたり、打ち合わせが毎週のようにあると負担をかけることになり長続きしないことが考えられますが、イベント的な連携はしやすいと思います。地域協議会が企業と連携していくには運営のところでは難しさあるというような話し合いになりました。また地域にはスポーツ振興会など色々な団体があるんですけども、そういった団体と協力して活動を進めていく場合に、それぞれ実績を作ってきた中で開催方法などを整理していくところで難しさがあった

りするので、色々な団体と連携する必要があるけれども、積極的に進めるというところではまだ課題があるという話になりました。

【事務局】

はい、ありがとうございました。今度はですね、Bグループさんの方は難しさというところでご意見をいただきました。企業さんも打ち合わせを毎回では少し負担になってしまうのではないかなと。特定のイベントだけでという風であればいいかもしれないけれど継続的な連携となるとまだまだ課題があるのかなとの意見でした。確かに協議会の皆さまと全て一緒に、自分たちの得意分野でないところでも付き合っていこうよとなるとやっぱり団体さんも企業さんも難しいかなと思います。じゃあ得意なとこだけ付き合おうとするとイベントになるのかもしれないんですけども、メリハリみたいなものもあるんじゃないのかなという意見だと思います。あとスポーツ振興会など長い歴史がある団体もありますが、地域協議会は長いところでも10年です。地域協議会と比べて長年やってきた団体と言うのはやっぱりそれぞれのこだわりだったり思いがあると思いますので、一緒に連携をやっていきたいと思います。そこは丁寧にやっていく必要があると思うという意見でした。そうですね、これは我々も気をつけないとみんな地域協議会の輪の中に入ってほしいという気持ちはあるんですが中々そう簡単にはいかないのかなというところも肝に銘じたいです。ありがとうございました。拍手をお願いします。それでは最後にAグループさんよろしくをお願いします。

[Aグループ 池谷委員より説明]

Aグループ社会福祉協議会池谷が発表させていただきます。出た意見としてやっぱり地域の中でどんな団体があるのかを知ることが必要なんじゃないかということで、団体のリストアップをしてまず知ることから始めようと、そして団体が分かったらその団体と地域協議会でネットワークを作っていくことが必要だろうという意見が出ました。それから実際の活動に関しては、活動していただいた企業や団体には地元の広報誌などで掲載をして、こんな活動をしたよという紹介をしてあげるといのが必要なんじゃないかなと思います。同じような感じにはなりますが企業側が何か地域に

貢献することでどんなメリットがあるのかも一緒に合わせて考えることも必要なのかなど。企業や団体に協力してもらうことを先に考えてしまいがちなんですけども、我々地域協議会や地域が企業に対して、団体に対してこんなことを協力できるということも少なくないのかなと思いました。以上です。

【事務局】

はい、ありがとうございます。どんな団体があるのかを具体的に知ることですね。そして知った所との繋がりを持ってネットワークを持つこと。そして団体の方と一緒にやっていくからには地域の一員として地元で知ってもらうということですね。地域協議会は、その参加した団体のご紹介をしっかりと行うことが大事なのかなと思います。あと企業さんの方にも何かしらのメリットがあったり、やって良かったと思ってもらえるような取り組みがないとただ協力してと言うだけでは中々上手くいかないかなどご意見をいただきました。ありがとうございます。

グループごとでいろいろな意見が出てきて面白い、というか素晴らしいなと思います。例えば、こんな形でできてるよ、スタートしてからこんな形で進んでいるというところもあれば、今後こういう風に進めていきたいと思っているという意見。そして進めていくためには中々難しい問題があるんじゃないかというご意見や進めるにあたっては団体さんに対してもこういうことをちゃんとやってあげないと、進め方については本当に四者四様で大変貴重な意見が聞けたなと思います。

どうでしょうか、今発表を聞いてまだ言い足りないとか、これってどういうこと、どんな風なのというのがあればお伺いします。

〔舟橋委員〕

はい、こども食堂というのはどういう場所でやられているんですか。いつもよくこども食堂と聞くんですけど、そういうスペースが場所の問題なのか、うちもやれたらやりたいと思うんですけど。その辺ちょっとご教授いただけたらなと思います。

【事務局】

こども食堂は色んな形がありますが、石田委員が代表でいらっしゃる『こどもっと食堂』について教えていただけたらと思います。

[石田委員]

こども食堂の1番のポイントはまず子どもさんに食事を作るということですので、預かる人数にもよりますが献立をつくる必要があります。次に食事会をする前には参加されるためのお客さんの客席数が必要となってきますのでスペース、施設が必要となってきます。それから食材は農協さん、農家さんたちの協力を得ています。あとはスタッフの問題です。スタッフが十分に集まって和気あいあいと仲良くやってくれないと食事の内容が良くなりません。また、スタッフの中で献立のできる、調理師さんとかはいらないのである程度衛生面と栄養のわかる方が1人以上入っていただけますと問題ないと思います。これが私の考えの中で特に必要なところかなと思います。以上です。

【事務局】

ありがとうございました。こども食堂さん、どこのこども食堂さんも同じだと思いますね。やっぱりスタッフさんは仲いい人たちに集まってほしい。いがみ合っていたらおいしい食事がつくれないはず。大事なところだなと思いました。ありがとうございました。あと他にはよろしいですか。最後に伊藤先生に締めてもらいましょうか。

[伊藤委員]

はい、締まるかどうかわからないんですけども、家族とか個人とかが孤立した状態が1番まずい。それぞれのお家の中で困り事に応えてケアすることができてれば外に話を持って行く必要はないんですけども、さっきの草むしりもそうですが、家族単位で解決していくことは難しい現状はあるかと思います。それを区に相談しても区が解決してくれるのかというヒューマンリソースの問題があったり、さっきのこども食堂も企業さんから提供してもらってということがあったりするので、区単位でできないから地域協議会という1つのワンクッションがある。ただし、地域協議会が全部問題をクリアにするわけではなくて、解決に向けて寄り添っていく。お

たすけ隊のような、解決できる手段や団体があればいいんですけれども、全部が全部そうではないから何に頼ったらいいか、行政的に言うと民生委員さんとか窓口だとかという話になってしまうのですが、いつどこでどんな困りごとが起こるかわからないので、災害もそうですけど、病気とか、職を失ったとか、いつ自分が普段の日常を失うかわからない時代に生きている中で1人にさせない、家族単位にさせないというところに地域協議会の意味があると思います。孤立を防ぐことが1番最低限の地域協議会のミッションであって、それが誰かの居場所になったりとかすればいいし、会社さんだったりとか団体さん、安藤委員の言われたボランティア『オーエスブイ』。そういう風に居場所づくりに繋がっていき、受け皿を自分たちで作っていくところに地域協議会の意味があるので、そこを踏まえた上でどうやって自分たちで足りない所を他と連携してやっていくか。それがすごく大事なのかなと思います。話を戻しますが孤独にしないということは誰かの居場所を提供し、協働するということですね。社会貢献したいというニーズがあって地域協議会がどうするか、そのための窓口が見えていないですから、どこにその団体さんの連絡先だったりとか、そしてそこに連絡すればこの人いますよと紹介してくれるのか。それによって緩やかなネットワーク作りをしないと地域協議会単位だけではやっぱり仰る通り、難しいので横の繋がりを保ちつつ自分たちで完結しようとしなない。自己完結はできないので、そこをカバーするためのネットワーク作りというのを市の方がちょっとてこ入れしていただけるとありがたいというところで、市に活躍していただきたいと思います。以上です。

【事務局】

ありがとうございました。大変拙い進行でしたが伊藤先生手伝っていただきありがとうございました。それでは意見交換を終わりにしてその他の説明の方ですね、事務局の方から説明させていただきたいと思います。

【事務局】

ありがとうございました。次回の第3回の会議につきまして、11月頃の開催を予定しておりますので調整が出来次第また皆さんにお知らせさせていただきます。よろしく申し上げます+3。

【事務局】

これで次第に書いてある議題については全て終了致しました。本当に長時間にわたり拙い進行にお付き合いいただきました。また次回は加藤先生に活発な進行で思う存分に回していただけたと思いますので、どうぞまた次回もよろしく願いいたします。それではこれにて第2回小牧市地域協議会推進市民会議を閉会させていただきます。皆さんありがとうございました。